

視 察 報 告 書

報告者氏名 うた桜子

1 会派名

流山みらい（視察者：うた桜子）

2 期 日

令和 6 年 2 月 24 日（土）

3 視察地及び調査事項

（1）大阪府泉大津市

ア 後遺症改善プログラム

4 所感等

（1）大阪府泉大津市：.....
目的：大阪府の泉大津市は自治体で健康促進事業に力を入れており、コロナに負けない身体作りとして「養生・健康力向上プログラム」、新型コロナ陽性が出て重症化を予防する目的として「重症化予防プログラム」、それからコロナ後遺症、コロナワクチン後遺症、ワクチン接種後のコロナ後遺症の改善にアプローチする「後遺症改善プログラム」があります。そのうち、私が常日頃から問題意識を持っており、一般質問でも度々紹介している「後遺症改善プログラム」を視察しました。流山市でも高校生がコロナワクチン接種後に学校に行けなくなり、どこも治療に積極的ではないので、鍼灸院に通っているという報告も受けていたので、是非流山市でもノウハウを取り入れてもらいたく、視察しました。
所感：泉大津市が自治体でこのプログラムを始めたきっかけは、コロナが始まった当初、多くのクリニックが発熱患者を拒否したり、コロナ後遺症になっても対応する病院がほとんどなかったことから、治療法を確立していく目的で取り組み始めたそうです。そして、実際にコロナで重症化した人、エクモで半年治らなかった

た人、味覚障害、長期の咳、脱毛症に困っていた人が、泉大津市の呼吸セッションを受けたあと、息ができる！感覚が戻ったという声があり、ノウハウを手に入れていったそうです。特に水素高出発生器では脱毛症が治ったケースもあるそうです。その後、ワクチン接種後の体調不良の相談が増え、そちらにも対応されたとのこと。しかし、実証実験的に始めた同プログラムは、コロナ後遺症に関しては、受けたら比較的すぐ治るのに対し、コロナワクチン後遺症は、一旦治ってもまたすぐに体調不良になってしまったりと、治療が長期化する傾向があるそうです。また、市外から遥々こられるワクチン後遺症の患者は、大前提として同プログラムで初めて話を否定せず聞いてもらえたということで、大変喜ばれるそうです。

プログラムの様子：当日は、専門の医師、看護師、整体師が、患者1人につき4時間ほどかけて、それぞれ検査、治療、栄養指導をされていました。



後遺症改善プログラムにおける検査の様子。



コロナワクチン5回接種後、歩行困難になり、車椅子での生活になってしまい、奈良から治療に来ていた看護師。

検査：口内の pH をリトマス紙で測り、酸性の度合いをチェックし、自律神経を分析し、味覚・聴覚を評価します。

治療：体内の酸化を還元するために、水素吸入器を使います。また、足湯で血行を促進します。鼻の洗浄も行います。また、姿勢を正し、深い腹式呼吸の指導があります。

栄養指導：まずは何か新たに体内に入れるのではなく、プチ断食でデトックスを指導します。それから人工甘味料や添加物、残留農

このように実際に数値による見える化を測り、データとして3年間のノウハウを蓄積してとってあります。このノウハウは泉大津市だけではなく、フルオープンにして全国に広げるつもりなので、積極的に興味ある自治体には働きかけるとのことでした。実際に泉大津市の南出市長は、流山市に訪問して説明する時間を設けたいと仰っていましたので、今年中にその手配のお手伝いできればと思います。

後遺症改善プログラムにおける
自律神経評価

泉大津市の南出市長と、後遺症改善プログラムに視察に来た愛知県あま市の美濃島市議。

以上